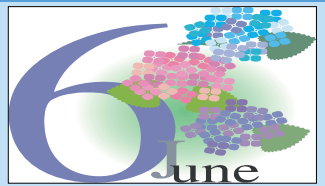


機 鋒

TOUGEN NEWS

6月1日(木曜日)

発行所 桃源院
発行責任 桃源院 広報部
〒191-0065 日野市旭が丘1-10-4
編集 桑原賢龍 田中高文
桃源院アドレス
<http://www.momo.or.jp/>



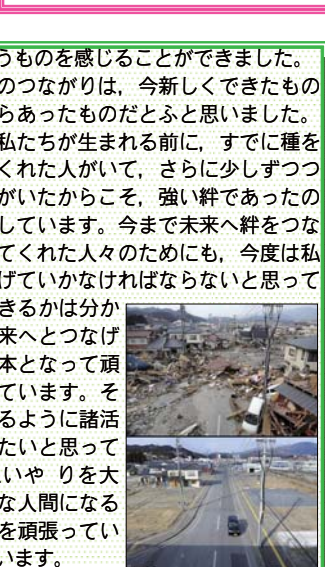
桃源院本堂復興 再建委員会

平成23年3月11日の「東日本大震災」で、宮城県大崎市の桃源院本堂は甚大な被害を受けました。250年の歴史の本堂は、江戸から明治の廃藩置県、日清・日露戦争、太平洋戦争を経てきました。

また、昭和37年、平成8年、平成15年と大きな宮城北部での地震で受けた損害の補修を続けてきました。しかし今回の大地震の被害は甚大で補修も間に合いません。250年の歴史に終止符を打ち、新たな本堂を300年先までの未来に残そうと決まり、桃源院本堂復興再建委員会を設立してこの事業を進めております。(写真は鎌倉の浄妙寺で、この屋根を参考にしています)

屋根の銅板の工事は終わりました。現在は内部の木工と電気、設備工事に入っています。

梅雨を過ぎ盛夏の8月の完成を目指して、工事はピッチを上げて進んでいます。



デング熱騒動 今年はどうなる

大騒ぎをした昨年のデング熱騒動。蚊を媒介にして感染すると聞くと不安や心配になりますが、実は感染しても重症化するのはいまだ少ないです。

デング熱とは、デングウイルスに感染した蚊に刺されることで生じる感染症です。熱帯や亜熱帯地域で流行しており、全世界で年間約1億人がデング熱を発症しているといわれています。人から人へは感染しません。もし感染しても発症しないことも多いとされています。

ウィルスで私たちは免疫を得ることができません。再発する場合があります。再発は、前回と異なる型のデングウイルスに感染した確率が高くなります。

デングウイルスに対する特別な薬や治療法はなく、発症した際は症状に応じた対症療法が行われます。デング熱に有効なワクチンはなく、予防としては、海外の流行地に出掛ける際には、長袖・長ズボンを着用するなど、蚊に刺されない工夫が重要になります。

日本国内では、デング熱の主な媒介蚊であるネッタイシマカは、常に生息していますが、媒介能力があるヒトスジシマカは青森県以南に生息していると考えられています。今回のように海外渡航歴がなくとも、デングウイルスに感染したヒトスジシマカを介して発症する可能性も低いながらもあります。

ヒトスジシマカは、日中、屋外での活動性が高いため、屋外に出るときは肌の露出を避け、防虫剤などの適切な使用を心掛けることがよいでしょう。また、蚊の繁殖を防ぐため、ペットボトルやタイヤ、防水シートや植木鉢の水受け皿にたまった水など、屋外の水を放置しないことも大切です。

越えてきたため、日本国内でのデング熱の感染は一度性のもと考えられていますが、今年はどうなるかは予断は許されません。東京都では、デング熱の専用電話を開設して、都民

工場の重要になります。日本国内では、デング熱の主な媒介蚊であるネッタイシマカは、常に生息していますが、媒介能力があるヒトスジシマカは青森県以南に生息していると考えられています。今回のように海外渡航歴がなくとも、デングウイルスに感染したヒトスジシマカを介して発症する可能性も低いながらもあります。

ヒトスジシマカは、日中、屋外での活動性が高いため、屋外に出るときは肌の露出を避け、防虫剤などの適切な使用を心掛けることがよいでしょう。また、蚊の繁殖を防ぐため、ペットボトルやタイヤ、防水シートや植木鉢の水受け皿にたまった水など、屋外の水を放置しないことも大切です。

越えてきたため、日本国内でのデング熱の感染は一度性のもと考えられていますが、今年はどうなるかは予断は許されません。東京都では、デング熱の専用電話を開設して、都民

工場の重要になります。日本国内では、デング熱の主な媒介蚊であるネッタイシマカは、常に生息していますが、媒介能力があるヒトスジシマカは青森県以南に生息していると考えられています。今回のように海外渡航歴がなくとも、デングウイルスに感染したヒトスジシマカを介して発症する可能性も低いながらもあります。

ヒトスジシマカは、日中、屋外での活動性が高いため、屋外に出るときは肌の露出を避け、防虫剤などの適切な使用を心掛けることがよいでしょう。また、蚊の繁殖を防ぐため、ペットボトルやタイヤ、防水シートや植木鉢の水受け皿にたまった水など、屋外の水を放置しないことも大切です。

越えてきたため、日本国内でのデング熱の感染は一度性のもと考えられていますが、今年はどうなるかは予断は許されません。東京都では、デング熱の専用電話を開設して、都民

急性の熱性疾患で、主な症状は高熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、眼窩痛、発疹などです。症状は1週間程度で治まり、予後は後遺症なく回復します。ただ、ごくまれに患者の一部に重症型の「デング出血熱」が出現することがあります。デング熱には、4つの血清型(1・2・3・4型)があります、感染した型の



工場の重要になります。日本国内では、デング熱の主な媒介蚊であるネッタイシマカは、常に生息していますが、媒介能力があるヒトスジシマカは青森県以南に生息していると考えられています。今回のように海外渡航歴がなくとも、デングウイルスに感染したヒトスジシマカを介して発症する可能性も低いながらもあります。

ヒトスジシマカは、日中、屋外での活動性が高いため、屋外に出るときは肌の露出を避け、防虫剤などの適切な使用を心掛けることがよいでしょう。また、蚊の繁殖を防ぐため、ペットボトルやタイヤ、防水シートや植木鉢の水受け皿にたまった水など、屋外の水を放置しないことも大切です。

越えてきたため、日本国内でのデング熱の感染は一度性のもと考えられていますが、今年はどうなるかは予断は許されません。東京都では、デング熱の専用電話を開設して、都民

工場の重要になります。日本国内では、デング熱の主な媒介蚊であるネッタイシマカは、常に生息していますが、媒介能力があるヒトスジシマカは青森県以南に生息していると考えられています。今回のように海外渡航歴がなくとも、デングウイルスに感染したヒトスジシマカを介して発症する可能性も低いながらもあります。

越えてきたため、日本国内でのデング熱の感染は一度性のもと考えられていますが、今年はどうなるかは予断は許されません。東京都では、デング熱の専用電話を開設して、都民

東日本大震災復興

名取第二中学校 佐藤 愛

これからの日本を支えていく私たちは、一人ひとりが協力し合い、みんなできつになっていかなければいけません。そして、協力することによってできた絆を次の世代へと引き継いでいきたいと思っています。そのことは、東日本大震災を通して感じました。三月十一日、東日本大震災が起き、ガスや水道、電気が止まりました。建物は崩れ、ガラスが割れ、見たことのない景色が広がり、うろたえました。これからの日本は大丈夫か、と震災直後はずっと心配ばかりしていたものです。

ですが、さまざまな人の支援を受けることで、私の不安は少しずつ薄らいでいきました。他県の人々からのメッセージ、食べ物を分けてくれた近所の人々、他国からも助けを受けました。そうしたたくさんの人々とのつながりのおかげで、元氣や勇気をもら

い、私は絆というものを感ずることができました。

でも実は、そのつながりは、今新しくできたものではなく、前からあったものだと思いました。私たちの両親や私たちが生まれる前に、すでに種をまいて、育ててくれた人がいて、さらに少しづつつけてくれた人がいたからこそ、強い絆があったのだと心から感謝しています。今まで未来へ絆をつなげようと頑張ってくれた人々のためにも、今度は私たちが絆をつなげていかなければならないと思っています。何が出来るかは分かりませんが、未来へとつなげられるよう、見本となって頑張りたいと思っています。そんな人間になれるように諸活動を通して学びたいと思っています。思いやりを大切にできるような人間になるために高校生活を頑張りたいと思っています。

と、人間の体内のデングウイルスの増殖を抑える効果があります。さらに、ボルバキアの細菌としての作用は、デング熱ウイルスを持つ蚊を減少させるワクチンのように働きます。

ブラジルでは20年以上のブラジルがあつたものの、2005年にデング熱が再発の見られ、その後30年間で300万件以上の発症が確認され



ブラジルのFicinia研究

華嚴曹海 — 江戸の大衆の感激

華嚴曹海（げこんそうかい）（一六八五—一七六二）
曹洞宗。豊後（大分県）の生まれ。俗姓松尾氏。号は華嚴。十
一歳で豊後・禅林寺。悦秀欣栄について得度。諸方を遍参して
徳翁、円山らに参じ、伯耆 総泉寺、大用慧照に参じて法嗣と
なる。越前 永建寺、丹波 西光庵、山城 神応寺に歴住し、
近江 長福寺を開いた。

この話が伝わって、当時の大衆の
人気を昂じた。元
禄十六年、元

むかし十九
歳の青年僧
はいまや曹
海和尚とな
ってふたた
び江戸に入
り、この寺
で七日間の
指導をやる
というのであ
る。沿道は人
で埋まった。

曹海和尚は曹洞宗の高徳
である。宝暦十一年に七十
七歳で没す。

な訳もある。

宝暦二年のこと、曹海は
もう六十八歳。有徳のほま
れ高く、近江に長福寺を創
立し、出雲に禅覚寺を創立
してそれぞれ開山第一世と
なり、いわば功成り名とげ
た頃であった。曹海和尚が
江戸の駒込 吉祥寺にやっ
て来るというので江戸中が
大さわぎであった。ことに
吉祥寺の周辺は大衆が一目
でもこの高徳の姿を拝みた
いというので、ぞくぞくと
つめかけ、駒込一帯は大へ
んな人出になった。

「このありさまは、いっ
たい何のことか」

「この通り、洗濯物を干
しています。着物がかわく
まで裸でいるのは当然、坊
主が坐禅するのも当然。な
にもあやしいことはござい
ません」



溝口侯は感じ入って、屋
敷に帰ると直ちに若い曹海
に衣類を贈らせた。この因
縁で侯は後に曹海に弟子入
りすることになるのである。

世の芸術家や学者や政治
家なら、こういう歓迎には
くほくすることだろう。し
かし、この禅者にとつて
は、そんなことはうるさい
だけのものだ。「沿道は善
男善女で埋まっておりま
す」と聞いて、彼は一計を
案じ、さっそく実行に移し
た。

群衆が今やおそしと待つ
ところに、金欄の五条の袈
裟をかけた老僧が威儀厳然
としてやって来た。三十人
ばかりの僧がそのうしろに
肅々と従った。

「おお、見えた、見え
た……」

「南無、ありがたや、あ
りがたや……」

大衆は地べたに平伏して
おがみ、数珠を鳴らして唱
礼した。

一行が山門に入る頃に
は、大衆は感激のあまり、
われ先にと賽銭を雨のよう
に降らせた。感激のために
顔を紅潮させながら彼らが

やがて解散しようとする
頃、同じ道を一人の貧弱な
黒衣の老僧がただ一人です
たこらと歩いて山門に入っ
た。

さきにやって来て大衆に
おがまれた金欄の老僧は橋
のたもとで乞食を商売とす
るおいぼれ爺とその仲間だ
った。あとでやって来た貧
しい身なりの老僧にはだれ
一人として礼拝する者はな
かったが、これを本当の曹
海和尚であった。

金欄の袈裟を着たおいぼ
れ乞食を伏しおがみ、本当
の値打ちあるものには一顧
も与えぬというわけだ。

わが曹海和尚は仏教者の
慈悲心をもって、みずから
演出してこれを実証して見
せたのであった。

現代でも、大衆の愚かさ
加減はそれどころではな
い。

素人あがりのタレントや
歌手を一目見ようと先を争
つてもみ合い、ついに生命
を失なった連中さえいる。

それというのも、目立つ
と有名になり、有名になれ
ばお金になり、賽銭ならぬ
ギャンブルと降る、という
のでやたらに異様なことを
したがるからであり、大衆
がまたそれに駆り立てられ
るからである。

群衆ばかりではない。政
治家や文化人やテレビ局、
評論家やジャーナリストな
ども、たぶん名声や肩書き
の付いた乞食の後を追っか

け回しているのが現代の様
であらう。

駒込 吉祥寺



吉祥寺由来

五江一（さ）井戸内
八戸一（れ）現
城ののののの
太中金ののの
二年印か城の
一「が」の道
「際」の道
「灌」の道
「が」の道

僧侶の養成機関
として、前橋林（
沢大の学、千名を
も僧が一、坂学
の幕府が昌平、
問と並び称され
た。所と並び称
（文京区教育委員
会）



後藤 さとみ

死んだ父は「月の沙漠」という歌が好きでした。残念なことに尋ねたことはなかったもので、今となってはその理由は分かりません。

小学生の頃、日曜の朝になると決まって父は、私の部屋の下にあるオルガンで、この曲をぶかぶかと弾くのでした。私はへたくそな間奏の辺りで、仕方なく起き出したもので、ぐしやぐしやの頭、半開きのままの目でそばに行くと、

「この歌、いいべえ」と、

いつも同じことを父は言いました。

私は「うん」と生返事をしながら、ぼーっとしている中、白い服を着た王子様とお姫様が月明かりの中、果てしなく続く砂漠の丘を上ってゆく様子を思い浮かべて、「これ日は朝らしくない歌だけれど、このさびしい感じは何だか日曜日に合っているのかもしれない」と思ったりしたのでした。

父が末期がんと診断された、緩和治療のために使っていた薬のせいでもうろうとしていた時、私は病室で小さな声でこの歌を口ずさみました。

「つぎのくさばくをくはくるばるとく」

のところがまだできたときに、父も唇を動かして歌にはならぬ歌をうたいました。なつかしくてかなしい歌でした。告別式では兄弟四人で相談してこの曲を流すことにしました。春陽に空が真つ青に澄んで美しい日でした。たしか、春光桜という早咲きの桜もほころび始めていました。

父はひとりで、どこまで行ったのでしょうか。黙ってとぼとぼと、らくだに揺られてどこに行ったのでしょうか。

お姫様がいっしょでなくて、きつとさびしい旅かもしれません。

月の沙漠

月の沙漠をはるばると旅の駱駝が行きました
金と銀との鞍置いて二つならんで行きました
金の鞍には銀の褡、銀の鞍には金の褡

二つの褡はそれぞれに紐で結んでありました

先の鞍には王子さま 後の鞍にはお姫さま

乗った二人はおそろいの白い上着を着てました
広い沙漠をひとすじに二人はどこへ行くのでしよう

朧にけぐる月の夜を対の駱駝はとぼとぼと

砂丘を越えて行きました

黙って越えて行きました





お盆のいわれと由来

お盆の正式名称は「盂蘭盆会・うらばんえ」と言います。
先祖の精霊を迎え追善の供養をする期間を「お盆」と呼びます。

七月または八月の十三日より十六日までの四日間をさします。

十三日の夕方に迎え火を焚き、先祖の霊を迎えます。

期間中には僧侶を招きお経や飲食の供養をします。

十六日の夕方、送り火を焚き、御先祖さまにお帰りをいただきます。

逆さ吊り？

「盂蘭盆会・うらばんえ」とはインドのサンスクリット語のウラバンナ(逆さ吊り)を漢字で音写したもので、転じて「逆さまに釣り下げられるような苦しみにあっている人を救う法要」という意味です。

お盆の行事はお釈迦さまの弟子の一人、目連尊者(もくれんそんじゃ)が母を救う話に由来しています。

目連尊者はある時、神通力によって亡き母が餓鬼道に落ち逆さ吊りにされて苦しんでいると知りましました。そこで、どうしたら母親

を救えるのかお釈迦様に相談したところ、お釈迦様は言われました。

「夏の修行が終った七月十五日に僧侶を招き、多くの供物をささげて供養すれば母を救うことが出来るであろう」と。

目連尊者がお釈迦様の教えのままにしたところ、その功德によって母親は極楽往生がとげられたのです。

それ以来(旧暦)7月15日は、父母や先祖に報恩感謝をささげ、供養を積む重要な日となりました。

日本各地で行われるお盆の行事は、各地の風習などが加わったり、宗派による違いなどによってさまざまですが、一般的に先祖の霊が帰ってくると考えられています。

お寺では施食会供養をしますが、家庭では先祖の霊が帰ってくる日としてさまざまな行事を行います。

日本のお盆

◆日本における「お盆」は、仏教に於ける盂蘭盆(ウランバナ)の行事・地獄の苦しみをうけている人々をこの世から供養することの功德によって、その苦しみを救いたいという行事と、昔からの今の自分があるのは、ご先祖さまのお陰であると感謝する先祖崇拜の心と合体したものです。

古くからの農耕儀礼や祖霊祭祀などが融合して伝えられてきたのが日本のお盆です。

お盆の習わしも、地域や宗教・宗派

によって、あるいは時代によって、さまざまに形を変えながら伝えられてきました。

その意味では、これが絶対に正しいという決まりはありません。

しかし、親族が一堂に会し、先祖や故人を偲び、今日ある自分をかえりみるという、お盆の根幹をなす理念は、千古の昔から変わらないものだといっているでしょう。

わが国の朝廷で行われたのは推古天皇(592年)・十四年七月十五日斎会を設けたのが初めてとされ、斎明天皇(592年)三年七月十五日飛鳥寺で盂蘭盆会が催されたとあります。

江戸時代以前のお盆行事は武家、貴族、僧侶、宮廷の上層階級で主に催され、一般庶民に広まったのは江戸時代のようです。江戸時代に入ると庶民の間にも仏壇やお盆行事が普及し、又、ローンクが大量生産によって安価に入手できるようになってから提灯がお盆にも広く用いられるようになりました。

盆と正月・藪入り(やぶいり)

「盆と正月」という言葉が聞かれるほど、日本人にとってお盆は大切な行事と考えられています。最近では藪入り(やぶいり)という言葉も死語となってしまうかもしれません。

江戸の時代、お正月とお盆には奉公人が休みをとって実家に帰ることが出来る時期で、これを「藪入り」と称しました。

当時は、仕事を見習うために、職人・商人ともに、十三・四歳頃から師匠や商家を選んで丁稚奉公にでたものです。丁稚たちは例年、正月の藪入りに主人から衣類万端与えられ、小遣いをもらって

親許へ帰ります。

この時期はまた、他家に嫁いだ女性の実家に戻ることの出来る時期でもあり、自分と自分の家(先祖、ルーツ...)の繋がりを確認する大切な行事でありました。

日本の「お盆」は、

仏教の盂蘭盆(ウランバナ)が藪入り(やぶいり)に結びついた



て、現代に伝えられたものです。

先祖の霊が帰ってくる日ということで、親戚一同が集まって迎え供養します。

故郷を離れている人も帰郷する人も多いことでしょう。

新しく家族になった人たちのお披露目や近況報告・思い出話など...

◆日本のお盆行事は、家族や一族があつまりご先祖を供養し、亡くなられた人をしのぶ行事として行なわれます。家族や一族が集まり、故人の思い出を語り合うことは大変に意義ある素晴らしい風習であると思います。

お盆の意義

◆お盆(盂蘭盆会)は、先祖や亡くなった人たちが苦しむことなく、成仏してくれるようにと、私

たち子孫が、報恩の供養をする時なのです。

◆離れていて供養に参加できない場合は...

最近では夏休みの時期も人それぞれ。お盆に実家に帰れないという人も多いはず。部屋の中に盆棚に見立てたコーナーをつくってみてはいかがでしょう。キキョウ、萩、ホオズキなどお盆につきものの花や先祖の霊が乗るといわれる、キュウリやナスビで作った馬や牛を飾りましょう。これに毎日お水を供えて遠く離れたご先祖様の霊に手を合わせてみて。お線香も必ずたきましよう。

お参りになかなか行けない人も、日頃のお礼の気持ちを先祖様に伝えるいい機会です。

地方によってその日程、盆棚の飾付けなどは多少異なりますが、その心は同じです。家の事情によってお仏壇を置けない家庭も多いようですが、お盆の間だけ先祖への気持ちを大切にして、簡単なお飾りだけでも作りませんか？



お盆の期間

お盆の日には地方によって異なります。

◆東京など都市部では、

7月13日～16日(4日間)に行うことが多いようです。

◆地方では、

8月13日～16日(4日間)

※日付に関しては始めと終わりが多少異なることはあっても15日を含むことは変わりありません。

◆旧暦のお盆は8月の12日ですが、地方でのお盆は1ヶ月遅れの形式で行われるのが一般的です。

※その理由は、15日という「日へのこだわり」があるためでしょうね。

旧暦のお盆の15日というのは満月の日という意味です。しかしそのような意味合いも、解りやすく憶えやすいことが優先されて、現在のような「1ヶ月遅れのお盆は8月15日」というところに収まったのだと思います。

旧暦で年中行事が行われていたころには7月15日が中心になっていましたが、現在では新暦の7月13日から15日まで、ないしは8月13日から15日までというのが一般的になっています。地域によってさまざまですが、お盆は全国的に都市部を除くと8月ということになります。

■なぜ都市部が7月で、地方が8月なのか？

※単純明快なことは、お盆は人が集まるからなのです。都市部と地方で同時にお盆を迎えると、親戚・知己などの縁者が一同に集まれません。

※学校の夏休み、月おくれ盆にあわせた帰省・フッシュなどなど・

それ以外にも、江戸の時代からの「藪入り」の風習など、様々

理由も考えられます。

一説によると、明治になって新暦が採用されると、7月15日では、当時国民の8割を占めていた農家の人たちにとって、もっとも忙しい時期と重なってしまい都合が悪かったからとの理由です。

お盆をひと月遅らせ、ゆっくりとご先祖様の供養ができるようにしたのでしょいか？



◆先祖の霊を迎える行事◆

お盆とは先祖の霊があつた世から帰ってきて家族と一緒に楽しいひとときを過ごし、また帰っていくという日本古来の信仰に基づく行事です。

お盆にはお寺の僧侶が檀家を回ってお経をあげて回ります。(檀家の多いところはお寺で合同の説経)

僧侶については、何件もの檀家を回らなければならない場合が多いので、無理にあればならすは避けます。説経してくれた僧侶には「御布施」と「御車代」を包みます。

「御布施」の金額の目安は、東京では新盆で2～3万円、新盆以外は1～2万円くらいが多いようです。

※お墓参りには一族が揃って出かけます。

一族の代表が花や供物を墓前に供え、それから血縁の濃い順に合掌礼拝し、線香や水を手向けます。仏前の火をいただき、それを提灯の中に入れてその灯火で先祖の霊を家まで導くという風習のあるところもあります。



■新盆の迎え方■

◆故人の四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆を「新盆」「ニイボン」といいます。

【新盆＝アラホン】、【初盆＝ハツボン】、【新盆＝シンボン】などと呼ぶこともあります。

※四十九日の忌明けより前に、お盆を迎えた時は、その年ではなく、翌年のお盆が、新盆となります。

新盆の時は、親戚・知人・近親者を招き、僧侶を迎えて、説経してもらいます。

(説経のあとは、仏への供養の意味で、参会者全員で食事をします。)

仏壇には盆の期間中、朝、昼、晩と3度家族と同じように食事を供えるようにします。これを「霊供膳(りょうぐぜん)」と言います。

普段のお盆よりも手厚く供養するのは、人の情として自然なことと言えるでしょう。

◆最も丁寧な新盆の迎え方

仏壇の前に盆棚＝精霊棚(しょうりょうだな)を設け、初物の農作物でつくったお供物(きゅうり・ナス)を飾り、供養膳に精進料理を盛り、白玉・だんご・果物・故人の好物なども供えます。なお、このお供物は墓前にも供えるので用意します。

また、お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばとか軒先に新盆提灯を飾るものとされています。

■新盆提灯■

新盆を迎える家だととのえたり、親戚や知人から、お盆の前に贈られたりします。

※新盆に限り、精浄無垢の白で霊を迎える意味から白木で作られた紋天が最も多く使われます。

軒先や縁側や仏壇の前に吊るして火を灯し、その灯りによって精霊に迷うことなく家まで導かれるという意味が込められています。新盆用提灯は1回(1年)限ります。



※新盆用の白い提灯は昔は自宅の庭でお焚きあげ(供養のため燃やす)をして土に埋めたり、川に流したり、菩提寺に持っていく供養をしてもらいましたが、現在では火袋に少しだけ火を入れて燃やし鎮火を確認してから新聞紙などに包んで処分する事が多くなっています。

新盆提灯は、お盆のあと、お寺に納める習慣になっているところもあります。

■盆棚＝精霊棚■

※精霊棚は、盆棚とも言われ、位牌を安置し、お供えをする棚です。

精霊棚は、台の上に真菰で編んだゴザを敷いて作ります。棚の奥中央に、先祖たちの位牌を安置します。

精霊棚を置く場所は、庭先・縁先・戸口・縁側・奥座敷・仏間・床の間・仏壇の脇などさまざまです。その地方の習慣に合わせて、決まった場所を作ります。地方によっては、お墓に棚を作るところもあります。

◆盆棚のつくりかた

※一般的なつくりかたは、マコモのゴザを敷いた台の四隅に青竹を立て、その上部に縄を張って結界とします。縄にはホウズキ、アワ、キキョウ、山ユリ、盆花(みそぎ)などを吊るします。マコモの上には位牌、ロソク立て、香炉、花立て、お供え物などを置きます。

※位牌の前には、なすやきゅうりで作った牛や馬を供えます。これは先祖の霊が「きゅうりの馬」に乗って一刻も早くこの世に帰り、「なすの牛」に乗ってゆつくりあの世に戻って行くようにとの願いを込めたものといわれています。そのほか、香・花・灯明・浄水・盛物・果物・野菜、それに、そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などを供えます。また、洗った米に、なす・きゅうりなどを煮(さい)の目に刻んだものを混ぜて、蓮の葉の上に盛り付けた、水の子と呼ばれるものも供えます。花も季節のものを生けて、欠かさないようにします。

※仏壇の前に精霊棚(しょうりょうだ

なを設け、初物の農作物でつくったお供物（きゅうり・なす）を飾り、供養膳に精進料理を盛り、白玉・だんご・果物・故人の好物なども供えます。

なお、このお供物は墓前にも供えるので墓前用も用意します。

また、お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばとか軒先に新盆提灯を飾るものとされています。

盆棚を設けるスペースがない場合は、仏壇で精霊棚を兼ねます。仏壇の上部にホウズキを飾り、手前にマコモのゴザを敷き供物類を供えます。

簡単には、仏壇の前に机を置いて、むしろを敷き、野菜やくだもの、花、団子などを供える程度でもよろしいかと思えます。

※お盆のしきたりは宗派や地域によって異なります。ここに紹介したのは、あくまでも一般的なものです。詳細



しいことはお寺にお尋ねになってください。

◆迎え火―送り火

◆五山送り火

「大文字」で有名な五山送り火はお盆の送り火の代表的なものです。

毎年8月16日に京都府京都市にある如意ヶ岳（大文字山）などで行

われますが、宗教・歴史的な背景から「大文字の送り火」と呼ばれることもあります。

一般的には大の字が有名のため「大文字焼き」とも呼ばれることもあります。



すが、これは正しい言い方ではないそうです。

（迎え火、送り火の習俗は江戸時代に盛んになったものです。）

◆迎え火

12日夕刻か13日午前中に精霊棚や仏壇のおかざりとお供えをすませ、13日の夕刻、縁側の軒先か精霊棚のところに吊るされた盆提灯に火をともします。

そして家の門口や玄関で素焼の焙烙（ほうろく）にオカラと呼ばれる皮をはいだ麻の茎を折ってつみ重ね、火をつけて燃し、その場で合掌します。これを迎え火といい、オカラを燃したその煙に乗って先祖の精霊が家に戻ってくるのを迎えます。（おがらは最近ではスパーなどでも手に入るようになっていています。最近では「焙烙」と呼ばれる素焼きの皿がありますので安全に迎え火をたぐことができます。）



※盆の入り（13日）の夕方、家の前で火を焚き祖先の霊を迎える。これが迎え火。

◆送り火

家に迎えた精霊を今度は送り火をたいてお墓に帰っていただきます。迎え火をたいた同じ場所（16日）又は15日オカラをつみ重ねて送り火をたきます。

※盆明け（16日）の夕方に火を焚いて祖先の霊を帰す。これが送り火。盆送り、送り盆などとも呼ばれます。

※京都の夜を美しく彩る大文字焼はこの送り火の名残であるとされます。

※盆棚の飾り物や供物は盆舟に乗せ明かりをともし、川や海に流しました。が、現在では一部の地方以外は行われていません。

※九州北部での精霊流しは、さだまさしの歌でも有名でご存知の方も多いでしょう。

◆ご家庭によっては実際に火を焚くことができない場合もあり、そうした時には盆提灯に電気で明りを点すことや明りを入れないでただお飾りするだけで迎え火、送り火とすることもあります。

◆迎え火の変形として有名なのが盆提灯です。

門前に吊された提灯は、祖霊がやってくるための目印であり、またその家の中に祖霊が滞在しているしるしであると考え鎌倉時代からこの盆提灯の風習は行われています。

◆精霊流し

送り火の一種。船にしつらえた灯籠を川や海へ流しこの灯籠と一緒に盆に迎えた先祖の霊を送り出す行為が原型

です。

精霊流しの際には、盆の間に供えた野菜や果物などのお供え物も流します。これは祖先の元へ供物を贈るという面と、死の世界と関わったけがれを水によって清めるという面をもったものでしょう。



精霊流しや灯籠流しなどで霊を迎えたり送ったりする地方や宗派もあります。最近ではそれができる川や海がないところというのが実情です。またお盆には「しょうりょう」という言葉（しょうりょう）とは亡くなった人々の霊（れい）のことをさした言葉です。「精霊流し（しょうりょうながし）」は戻ってきた祖先の霊（れい）たちが、安（やす）らかに帰れるようにと、供え物を舟（ふね）にのせて、海や川に流す行事です。

◆打ち上げ花火

夏祭りのメインイベントの打ち上げ



花火は元来、精霊送りの行事であったとされています。

◆盆提灯を贈る・・・

※一般的に新盆用提灯はご家族の方が購入し、その他の盆提灯は親戚・兄弟・知人の方々が贈りしていましたが、最近（主に都市部）では盆提灯を置くスペースなどを考えてご家族の方が全て揃える事が多くなっています。

◆一般の盆提灯

※新盆に飾る提灯には、白張りの新盆提灯と、盆提灯があります。

白張りの新盆提灯は、お身内の方が用意しますが、盆提灯はその他の親戚や知人から贈られます。

近親の方は毎年飾ることのできる、色柄物を贈るほうが喜ばれるでしょう。形や柄にきまりはありませんが、秋草模様など難難でしょう。なお、提灯を贈る場合は、先方の都合を考慮して、一週間前には届くようにしましょう。

基本的には、相手の家紋を入れ、一対にするのが正式な贈り方です。

◆お盆が終わったら・・・

色の付いている盆提灯は毎年使えるものですが、お盆が終わったから綺麗に拭いてから箱に入れて保管します。



※お盆に提灯を飾る風習は鎌倉時代の「明月記」に寛喜二年（1250年）七月十四日に京都で精霊迎のため、高灯籠が用いられたとあります。当時の盆提灯は高灯籠といって庭先や門口屋根の上に高い竿をたてて、その先に付

けて精霊の送迎の目印にしました。

※新盆に限り、精浄無垢の白で霊を迎える意味から白木で作られた紋天が最も多く使われます。

軒先や縁側や仏壇の前に吊るして火を灯し、その灯りによって精霊に迷うことなく家まで導かれるという意味が込められています。御寺に納める新盆用の白提灯は1回（1年）限りです。

※新盆用の白い提灯は昔は自宅の庭でお焚きあげ（供養のため燃やす）をして土に埋めたり、川に流したり、菩提寺に持っていき供養をしてもらいましたが、現在では火袋に少しだけ火を入れて燃やし鎮火を確認してから新聞紙などに包んで処分する事が多くなっています。

新盆提灯は、お盆のあと、お寺に納める習慣になっているところもあります。

※新盆用の白い提灯は、ひとつあれば良いので、ご家族の方が用意します。

精霊馬 キュウリとナス

※キュウリとナスに割り箸を刺して馬と牛に見立てたもの。

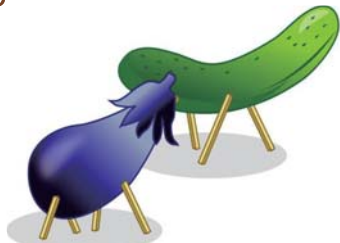
キュウリは馬の例えです。

お盆のときに、少しでも早く迎えらるるようにとの願いを表現しています。

ナスは牛を表現しています。お盆が終わって、帰るときはのんびりと。

◆一説には、

「精霊がキュウリの馬に乗り、牛には荷物に乗せて家に帰れるように」という意味が込められているとも言われています。



盆踊りは、戻ってきた精霊を慰め、送り出すために催されました。また、

時代とともに、宗教的意識は薄くなり、民衆の娯楽として発展してきました。地方によっては男女の出会いの場、求婚の場として、重要な行事となっていました。

現代では、すっかり「踊りを楽しむお祭」として各地で催されるようになってきました。

盆踊りは本来は仏教行事です。平安時代、空也上人によって始められた念仏踊りが、盂蘭盆の行事と結びつき、精霊を迎える、死者を供養するためのものという意識になっていきました。

室町時代の初めには、太鼓などをたたいて踊るようになったといわれています。

◆盆踊りのルーツ

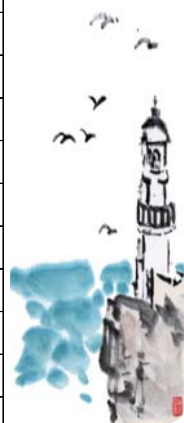
※いずれにしても、祖先たちの精霊のために踊るものですが、同時に、私たち生きている者の楽しみの一つであり、喜びの表現でもあります。

※盆踊りについては、さまざまな説があります。お盆にもどってきた精霊を慰め餓鬼や無縁仏を送るための踊りという説。お盆の供養のおかげで成仏することのできた亡者たちが歓喜する姿を表現したという説。

お盆にもどってきた精霊たちを踊りに巻き込みながら送り出すためという説。

盆踊り

た、戻ってきた霊が供養のおかげで成仏できた喜びを踊りで表す、と伝えられている地方もあります。私たちが、祖先に感謝し生きていることの喜びを表現するために踊ると考えてもよいでしょう。



「中今」を生きる 「今」ではなく「中今」

暑い日が続いています。今年もお盆の時期が来ました。新盆を迎える家庭は、慌ただしい事と思います。さて、冒頭の『中今（なかいま）』と読んで、何だろう？と思われたと思います。

最近、テレビや本では「今を精一杯生きる」「今が大切」「今でしょ!」と、「今」が多く取り上げられているようです。

これは良いことだと思います。でも反対に「今さえ良ければ」と、身勝手な犯罪や事件も起きています。

昔の日本では「今」のことを「中今」といっていたそうです。この『中（なか）』がつくことで、「今」はずいぶ変わります。前があって、後があるの今ということです。

私たちの「今」は私たちだけの物ではない。だから善を行い、精進しなさい。これは仏さまの教えです。

親が苦労してくれたから、の自分が不自由がない生活が来ている。それに甘え、楽な生活をするばかりに、子や孫が不幸になってくる。これは「今」を自分の好きにした結果です。昔の人は「中今」と、「中」を付けることによって、先祖様から受け取った命を、自分が受取り、それを子孫に「つなぐ」という、自分の大切な役目を意識していたのです。

「次に命をつなぐ役目」そう考えると、身勝手に命を粗末にしたり、後先考えずに事件や犯罪を起こしたりしないはずですよ。

私は「中今」を生きている！と心にとめて、毎日を正しく、精一杯送りたいものです。お盆を迎え、命をつないでくれたご先祖に感謝し、ここを捉えての、お墓参り、お寺参りをしたいものです。

	適用	収入	支出	計
平成26年度	護持会費収入	3,315,000		
	前年繰越金	171,879		
	合計	3,486,879		
	寺報発送費			
26年6月	お盆号印刷		465,250	
26年8月	秋彼岸号印刷		556,500	
27年2月	春彼岸号印刷		465,250	
27年3月	各号発送費		868,399	
	修繕費用			
27年2月	竹林庵机椅子		362,400	
27年3月	紫雲白雲床張替		562,000	
	合計	3,486,879	3,279,799	207,080
次年度繰越金		207,080		

桃源院・布教発展基金 ならびに護持会への御協力をお願い

平素より当院には檀信徒の皆様より多大なる御厚情を賜り、心中より御礼申し上げます。また例年の布教発展基金、護持会寄金に多数の御協力をいただき感謝いたします。皆様の浄財は施設維持管理、桃源院施設拡充、布教関係の事業に充当いたしております。今後ともこの趣旨への御理解を頂き、御協力の程お願い申し上げます。

布教発展基金・護持会費 合計 金五千円 也

- 1、境内と4棟の建物、それに付随する施設等の維持費。
- 2、旧竹林庵の建て替え、新本堂の用地調達の積み立て寄金。
- 3、「機鋒」の編集、製本、発送にかかる経費。

振替用紙を同封させていただきました。御替助のもと金5,000円の御協力を御願いたします。御芳名は秋彼岸合同供養会にて御報告申し上げます。(強制では決してありません)

宗教法人桃源院 護持会 合掌



平成27年度 孟蘭盆会合同供養と棚経のご案内

紫陽花の咲く季節、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年も**孟蘭盆会合同供養会**を下記日程にてご案内いたします。

また、**棚経(自宅経)**の日程も併せてご案内いたします。

同封の申込用紙にご記入の上、**6月30日(火)**までに郵送かファックスにてお申し込み下さい。

盆供養	7月 4日 (土)	10時の部	12時の部	14時の部	孟蘭盆供養料 一霊につき	一万円
新盆供養	7月 5日 (日)	10時の部	12時の部			
盆供養	7月11日 (土)	10時の部	12時の部	14時の部	新盆供養料 一霊につき	一万五千元
盆供養	7月12日 (日)	10時の部	12時の部	14時の部		
					本塔婆料 一本につき	二千元

お時間のご都合がつかない場合は、どのお時間にお申し込みをいただいても結構です。

口桃源院駐車場は満車が予想されます。当日は、各法要開式30分前から豊田駅北口より送迎バスを運行いたします。どうぞご利用下さい。

☐ 法話・御詠歌・簡単なお食事・お抹茶・お菓子もごさいますのでお問い合わせの上お参りください。

☐ 『欠席供養』

当日欠席にての供養をご希望される方は、申し込み用紙に「欠席」とご記入の上、お手数ですが現金書留にてお申し込み下さい。ご供養の上「供養記念品」をお送りいたします。

棚経巡行日

7月13日 (月)	西東京市・武蔵野市・東久留米市・清瀬市 三鷹市
7月14日 (火)	立川市・昭島市・東大和市・武蔵村山市・青梅市・福生市 羽村市・あきる野市・西多摩郡・国立市 国分寺市・小平市・小金井市・東村山市・府中市
7月15日 (水)	八王子市・日野市
7月16日 (木)	東京都区内・神奈川県・埼玉県・千葉県 多摩市・町田市・稲城市・狛江市・調布市

午前・午後・どちらでもよい
にいずれかを○印で囲ってお申し込み
ください。

ご不明な点や、日程のご相談があれば、**桃源院**までお早めにご相談ください。

電話 **042-583-1133**